

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と開設者で常に話し合い、一緒に県・市・福祉連合会等の研修や会議に参加し、社内研修や朝の申し送り時に伝達し、スタッフ全員の意識を高めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に理念を唱和し常に意識を高めている。ケアカンファレンス、社内研修等に全員で話したりレポートを出し合ったりして目標の具体化に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関を入った正面の見やすいところに掲示し、利用申し込み時・入居時に必ず説明している。地域に対しては、開所前に説明会を開いたり周囲の家に挨拶に伺って理解していただいたり、地域の催しや隣組に参加し、ホームの夏祭りやクリスマス会等に地域の方に来ていただき、理念を理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りや庭に草木や野菜を植えたり、庭いじりをしている時など、近所の方と声をかけ合ったりしている。また散歩や買い物時等声をかけてくださったり、隣近所の方が野菜を届けてくださっている。近隣の方がいつも散歩で通る道を「のぞみ通り」と名づけ、道路沿いに花を植えてくださったり、地域に溶け込み、地域に支えられていることをいつも感じている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に参加したり、地域の催しに参加し交流をすることに努めている。特に老人会の場ではよい交流の場になっている。夏祭りやクリスマス会に地域の方達をご招待している。	

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>運営協議会等でホームとして地域の方々に出来る ことをしていきたいと常にお話させていただいて いる。市の見守り事業所として登録し、地域の行 方不明者の発見に協力している。共用型認知症対 応型共同生活介護の指定もっており、自主事業 で緊急の一時宿泊も行っている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ケアカンファレンスで評価結果を検討し、サービ ス改善に活かしている。全職員が自己評価を行い それをまとめて自己評価を作成している。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営協議会を定期的開催し、利用者やサービ スの実際、評価への取り組み等について報告や話 し合いを行い、サービス向上に活かしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>市町村の連絡調整会議、グループホーム部会等 に参加し、市町村とともにサービスの質の向上に 取り組んでいる。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>各種研修、社内研修等で学んでいる。ケアカン ファレンス等で必要に応じて活用できるよう支援 している。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>各種研修、社内研修等で学んでいる。ケアカン ファレンス等で情報交換を行い虐待が見過ごされ ることがないように注意を払い防止に努めてい る。</p>	

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧な説明を行い利用者や家族等の不安、疑問点等を伺い十分な説明を行い理解、納得を伺っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が寄せられた場合は会議を開いて検討、改善し入居者のご家族や運営協議会などで報告している。利用者の言えない表せない思い等関わりの中で常に利用者の立場になって思いを把握し反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月ホーム便り・預かり金明細をお届けしている。入居者の暮らしぶりや健康状態については、面会時や電話等個々に合わせた報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に市町村の相談窓口を載せてある。ホーム内に、苦情箱や個人の面会ノートを用意しており、苦情を寄せられた場合は会議を開いて検討改善し、家族や運営協議会で報告している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開設者、管理者、パートも含めた全職員参加の全体会議、ケアカンファレンスを行っている。緊急時はその都度、ケアカンファレンスを行っている。また全職員が毎月必ず提案書を出し検討、実行している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するために、その都度電話で連絡を取り合ったり話し合いを行い、勤務を調整している。	

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ホームから他事業所への移動は極力行わないようにしている。離職を必要最小限に抑えるよう、研修でモチベーションを高め、会議・食事会などで職員通しの交流を深めている。職員が変わる場合には、交代する職員が重複して勤務に入り、新しく入る職員がなじみの関係を作り上げてから交代するようにしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>春の全体研修のほかに、数ヶ月ごとに認知症の理解や介護知識・技術の習得のために社内研修を計画して行っている。県・市町村の研修やグループホーム協議会の研修は、個々の職員のレベルに合わせて参加させている。佐久地域のグループホーム同士での交流が深く、職員が交代に他のグループホームで学ぶ機会を作っている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム部会や佐久圏域のグループホーム連絡協議会に参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>食事会や会議などで交流を図り、不安や迷いを共有し解決できるようにしている。職員も入居者も楽しく伸び伸びと生活できるように、自主的に運営できるように支えている。困った時にいつでも連絡を取り合い相談できるように、管理者・ホーム・運営者同士が無料通話ができるように会社支給のソフトバンクの携帯電話を持っている。職員が安心して勤務できるよう、24時間対応で緊急時には押しボタンを押すと飛んできてくれるように警備会社と契約している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>インターネットで結ばれた日報を独自に開発し、出勤者全員が毎日入れる出勤報告、社内の職員・運営者同士の個人間連絡、全職員に知らせる回覧板、提案などを、送受信によって離れた場所でも瞬時に共有できるようにしてあり、運営者・管理者・職員個々の勤務状況や思いを共有し、必要に応じて会議・研修・食事会を行ったり、外部研修に参加する機会を設けている。</p>	

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者には事前にホームに来ていただいたり訪問して、困っていること、不安なこと、求めていること等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者の家族にも、事前にホームに来ていただいたり訪問して、困っていること、不安なこと、求めていること等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者、ご家族のお話をよく聞き、情報提供書、診断書等も参考にし、その時まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来ていただいたり、訪問したりする中で馴染みの関係が築けるように、家族と連携し、相談し、工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	感情豊かな生活を送れるよう全職員が言葉かけや雰囲気作りをしている。料理、畑仕事、遊び、漬物など職員に教えてくださり、助けていただき、共に過ごし支えあう関係を築いている。	

のぞみの家・西ユニット

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの入居者の様子を伝え、相談にのっていただいたりしている。入居者の思いに家族、職員と共に寄り添っていくことができるよう連携を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の関係が途切れてしまわないように入居者の思い、家族の思いのより良い関係が続けいけるような橋渡しをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お一人お一人の人生の歴史や習慣などを大切にし、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご家族にも相談しながら支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が助け合い、励まし合う場面が日常生活の中で度々見られる。必要な場面では職員がさりげなく目立たないよう橋渡しをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了したあともホームに家族が来て情報交換、相談援助などが行われている。		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にたくさんのお話を伺い入居者お一人お一人が生きて生活できるようにお一人お一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は入居者の思いを職員間で情報交換や検討をしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴や生活環境、その方らしさを知るための調査書に記入していただき、折に触れて入居者やご家族のお話をゆっくりと伺い、お一人お一人のこれまでの人生の把握に努めている。また、介護支援専門員・医療機関からは必ず情報提供をいただき、サービス利用の経過等を把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日入居者お一人お一人のファイルに日々の様子を細かく記録し、一人一人の人生の歴史にあわせて、持てる力を見極めている。またケアカンファレンスで情報交換し総合的に把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族、職員等で話し合い、入居者お一人お一人の心に寄り添って目標を立て、個々の特徴を踏まえて、地域でその人らしく暮らし続けるために具体的な介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は必ずモニタリングを行い、状態が変わった時にはその都度見直しを行っている。落ち着いていても入居後1ヶ月、以後は3ヶ月に1度は必ず見直ししている。	

のぞみの家・西ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づき、工夫など毎日の様子は個別記録、温度版やKOMI場面記録に記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域で暮らす認知症の方のために共用型認知症対応型通所介護の指定を受けており、緊急時には、自主サービスとして緊急一時宿泊を行い、馴染みの関係の中で環境が変わることなく過ごせるよう支援している。自宅での生活が困難になった時に、馴染みの職員がいる馴染みの環境への住み替えが出来るよう支援している。医療連携体制を生かし、主治医による往診や、訪問看護により、受診や入院を出来る限り回避し、ADLが落ちないよう早期の退院を支援し、本人の苦痛や感染の危険がない限り看取りまで行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、運営協議会や市の推進会議などで検討し、地域全体で協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、ご家族・他の介護支援専門員・サービス事業所・医療機関と話し合い、他のサービスを利用するために支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や長期的な問題があれば地域包括支援センターに相談し、協働している。		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係者間でケアカンファレンスを十分に行い利用者が安心して住み替えできるように支援している。特養、病院へ移られる場合には情報提供をお渡しするようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修、会議、ケアカンファレンス等で折に触れて大切さについて話し合っている。全職員が心配りをしている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	衣類を選んでいただいたり、献立を相談したり、外食時にメニューを見て好きなものを選んでいただいたり、出来るだけご自分で決めたり、意思表示出来る様な生活を送っていただいている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きたい方にはゆっくりと起きて朝食をとったり、毎日入浴したい方には毎日危険のない限り入浴していただき、自分のペースで自由に暮らせるように心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分の好きな服を選んで着ていただいている。理容室はご自分の好きなところへ行っている。行かない方には美容師に来てもらっている。		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

のぞみの家・西ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況、力量、希望に応じて家族と相談しながら出来るだけご自分のお財布にお金を入れて管理していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩に出て近所の方と交流をしたり、季節の変化に気づいていただいている。外に出ることによってより良い気分転換になっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お墓参りや故郷のお祭りなど、可能な限りお連れしたり、家族にお願いして実現できるようにしている。お花見、りんご狩り、ドライブ、外食等季節を感じて楽しんでいただける機会を作るようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使っていただき必要な援助を行いながら、家族等への電話の支援をおこなっている。現在は手紙を書ける方がいないため電話への支援となっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や和室を利用し、お茶類をお出ししてくつろいだ雰囲気を作り一緒に過ごしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切していない、ありえない。		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	新しい道路がホーム前に出来、交通量が急に増え、警察から施設を狙う強盗への注意もあり、家族に相談した結果、外部からの玄関と庭への出入り口に鍵をかけているが、庭へは自由に出入られるように鍵は一切かけていない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所、居間が真ん中にあり、常に全体が見える。お一人お一人の記録は居間でお話しながら行い、常にお一人お一人の位置、様子を把握、確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ケアカンファレンスで検討して決めた場所に保管、管理を徹底し、一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを用意し、いつでも目を通せる所に置いてあり、折に触れて再認識している。定期的に研修や練習を繰り返し、いざというときにすぐに対応できるようにしている。ケアカンファレンスで一人ひとりの状態を全員で把握して事故防止に努めている。ひやりはっと等の報告書の検討を行い、全員で経験を共有している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が年一回救命救急の講習を受けている。定期的に心肺蘇生の練習をしたり、研修を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。地域の行事や運営協議会において、地域の方や隣組の方の協力をお願いしている。		

のぞみの家・西ユニット


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	お一人お一人の変化を見極め、折に触れて家族に説明し支援している。ご家族、職員で話し合い、持てる力を活かして出来るだけ自由に過ごしていただき、お一人お一人の暮らしに抑圧感がないように注意している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常にお一人お一人の観察を密にし食欲の変化等も記録している。体調の変化や異変があれば情報の共有をし、必要があれば受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については全職員で勉強会を行い理解している。薬が変わる都度、日報にのせ、またケアカンファレンスで周知をはかっており、症状の変化の確認を徹底している。個人のファイルに薬剤情報提供書をはさんでありいつでも見られるようになっている。服薬はのどがごっくんと動くまでさりげなく確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜をたくさん使った料理、繊維質をとれる素材を取り入れ、水分摂取に気を配り、可能な限り毎日散歩している。またサインを見逃さず排便誘導をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせて、毎食後、歯磨きや入れ歯のケアを誘導、見守り、介助をしながら支援している。必要に応じて歯科訪問診療を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による勉強会や作成をしてもらった資料をもとに、栄養バランスの整った献立となるよう心がけ、毎食の献立を記録し、栄養士に確認していただいている。お一人お一人の栄養バランスや摂取状況を全職員が記録し、把握し、習慣に応じた支援をしている。		

のぞみの家・西ユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する研修会には必ず参加して、予防や対応策を全員に徹底させている。入居時に健康診断書をいただき、感染症に関する情報収集をしており、インフルエンザの予防注射は全入居者、全職員が受けている。現在これらの感染症はないが、出た場合は医師の指導のもとでマニュアルに沿って対応していく。予防には徹底して努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に台所、調理用具等の定期的な消毒や布巾の管理を徹底している。食材は新鮮で安全なものを購入し、安全な管理に勤めている。職員、入居者とも手洗いを徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや庭に草木や野菜を植え、手入れをしながら近隣の方や道行く人と声をかけあって会話が弾んでいる。普通の家の玄関として工夫されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さも雰囲気も広めの家という感じで和室にはこたつがあり、床の間には人形や花等を飾っている。トイレは車椅子も入れる様に広目だが、ドアに鍵をかけることも出来、全てに家庭的雰囲気に有するように心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、廊下に置いたソファ、自由に出入りできるテラスや事務所、食堂のテーブル等、気の合った人同士で話していたりテレビを見たり、自由に過ごしていらっしゃる。		

のぞみの家・西ユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

のぞみの家・西ユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小諸市の最南端千曲川を挟んだ佐久平の一角にホームがあり、美しい浅間山が間近く望める地に「のぞみの家」が建っている。建物に負けないサービスの質の向上に対する熱意がある。法人代表の徹底した職員指導により介護にあたる職員の質の底上げになっている。また各研修に積極的に参加できる環境になっている。家族から法人代表の熱意や職員指導、職員への感謝の気持ちの手紙が届き、一同の励みになっている。お一人お一人の思いに添ってお一人お一人を受けとめ、お一人お一人の思いに共感し共にくらししている。今年度より学生実習を受け入れるので介護実習を通してホームとしても改めて共に学び成長して生きたい。